

嘉麻市立稲築西義務教育学校

構造 鉄筋コンクリート造
階数 地上3階
敷地面積 54,371.62 m²
建築面積(校舎) 4,363.63 m²
延床面積(校舎) 10,903.86 m²
所在地 福岡県嘉麻市口春 629 番地



設計コンセプト

嘉麻市立稲築西義務教育学校の設計コンセプトを以下のとおり設定します。
※画像は参考イメージです。

外観イメージパース

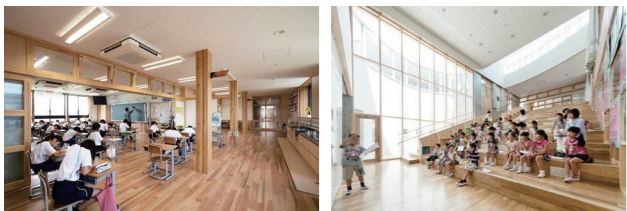


配置計画における4つのポイント

配置図

「生きる力」をより一層育む学校

義務教育学校として、児童生徒が主体的・対話的で深い学びができるよう、各教室機能の充実に加え、多目的ホール、階段教室、図書室、コンピュータ室、学習室など、多様な環境の中で「生きる力」を育てることのできる学校施設を目指します。



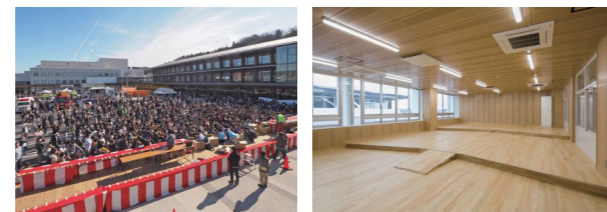
グループ学習や各学級の活動に対応できるオープンスペース
発表活動や劇場などに利用ができる多目的ホール・階段教室



読み聞かせスペースなど多様な機能を備え、楽しく学べる図書室
対話の中で学んだ知識を知恵に変えていく学習室

地域コミュニティの核となる学校

地域コミュニティの拠点として、学校敷地内には体育館、グラウンド、地域交流広場など地域のイベントの開催やスポーツクラブの利用などが可能な地域開放エリアを計画し、地域に開かれた施設とします。また、建物には木調の内装やユニバーサルデザインを採用し、多様な人々が訪れやすく使用しやすい施設とすることで、稲築西義務教育学校が地域コミュニティの核となることを目指します。



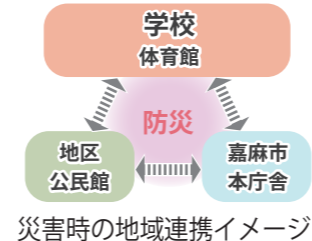
地域のイベントができる駐車場・地域交流広場
みんなが過ごしやすいぬくもりのある木調の内装



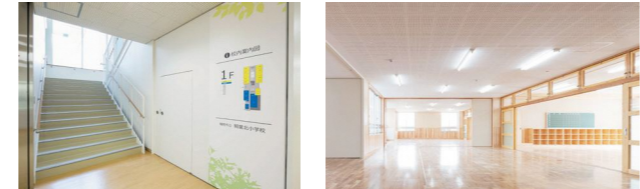
みんなが安心して使うことができる学校づくり(ユニバーサルデザイン)

安全・安心な学校

周辺施設との連携や災害時の避難場所として必要な機能の維持が可能な施設を計画し、災害時に安全・安心な学校を目指します。また、建物内においても、わかりやすい動線計画とし、児童生徒が安心して学校生活を過ごすことのできる学校を目指します。



断水時でも利用可能なマンホールトイレ
災害時に炊き出しが可能なかまどベンチ



わかりやすいサイン計画
広く見通しの良い廊下

1 児童生徒の安全を守る施設づくり

・学校生活を過ごす児童生徒の安全を最優先に考え、登下校や日中の活動時において児童生徒の動線と車両動線が可能な限り重ならないよう歩車分離を行うことで、児童生徒の安全を守る計画とします。
・学校敷地へのメインアプローチを南門、西門の2か所とし、敷地内は死角の少ない動線計画とします。また、給食車両や学童保育所送迎車の動線は東門とし、児童生徒の動線と明確に分かれた計画とします。
・1階昇降口前や駐車場などに防犯カメラを設置し、職員室から直接見えない場所でも確認できるようにすることで、児童生徒の安全を守ることができる計画とします。

3 多様な利用が可能な地域開放ゾーン

・セキュリティラインは学校運用時に児童生徒の安全が確保できる位置に計画します。放課後および休日には体育館を屋内の活動場所として、メイン・サブグラウンドを屋外の活動場所として地域で利用が可能な計画とします。

2 教職員が見守るグラウンド・広場

・メイングラウンド、サブグラウンド、憩いの広場は校舎の職員室から見守ることのできる範囲に配置し、学校生活の中で児童生徒が安全に活動できる場所を計画します。
・憩いの広場は天然芝エリアや遊具を配置することで、児童生徒がのびのびと過ごすことのできる場所として計画します。
・メイン・サブグラウンドは多様な競技に対応できる広さを確保し、学習活動や社会体育活動に幅広く活用できる計画とします。

4 災害時の防災拠点機能の確保

・災害時には体育館を中心に避難施設として活用が可能な計画とし、地域交流広場や半屋外スペースでは、かまどベンチを活用した炊き出し、救援物資の受け入れなど、災害対策活動が行える計画とします。
・マンホールトイレの配置や防災備蓄倉庫の設置など、避難所として活用できる計画とします。

平面計画における6つのポイント

① 異学年の活動が見える『コ』の字型

- 1-a 普通教室を『コ』の字型に配置することで異学年の活動の見える化を図ります。
- 1-b 交流スペースは児童生徒の動線の交点に計画し、異学年との交流が自然と生まれる計画とします。
- 1-c 回遊性があり、死角が少ないシンプルな廊下とすることで、避難時もわかりやすい計画とします。

② 児童生徒の成長に合わせた環境づくり

- 2-a ロッカーや下足棚の高さは学年によって調整を行い、児童生徒が使いやすい計画とします。
- 2-b 前期課程は普通教室前にオープンスペースを確保し、普通教室を拡張して使える計画とします。また、オープンスペースの入口を扉で区切ることで、学年単位での活動も行える計画とします。
- 2-c 後期課程の普通教室前のロッカースペースには、十分な収容量が確保されたロッカーを配置した計画とします。

③ 児童生徒の食育の場になる給食室

- 3-a 廊下に隣接した場所に見学スペースを設け、見学窓から給食室が見える計画とします。
- 3-b 掲示物コーナーを設置することで、日頃から児童生徒の食育につながる計画とします。
- 3-c 動線を考慮した使いやすい給食室レイアウトとし、手洗い場や扉を適切な位置に計画して、衛生管理を十分にできる計画とします。

④ 明るく清潔な共用空間づくり

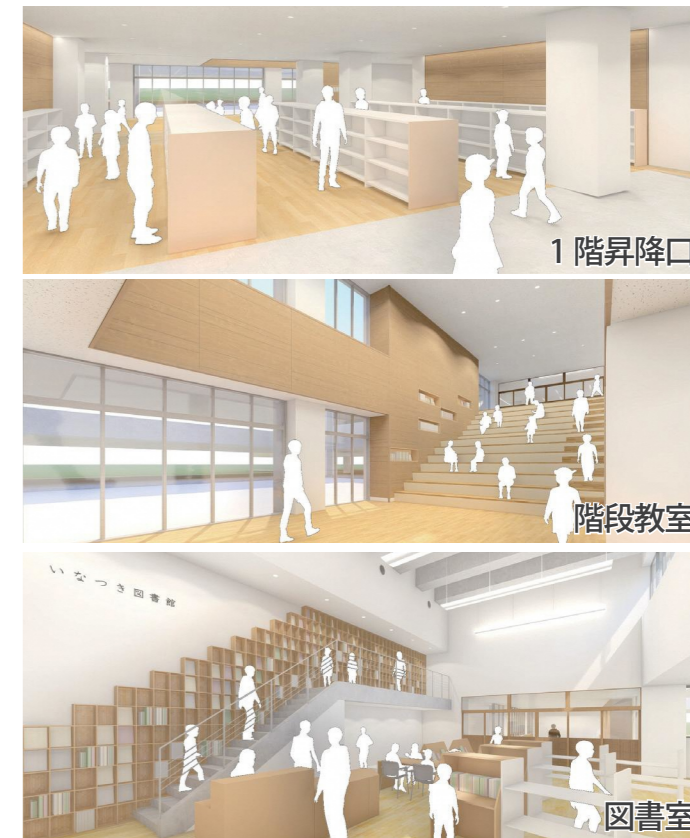
- 4-a トイレ空間は可能な限り非接触化し、壁やブースに抗ウイルス建材の採用を行う計画とします。
- 4-b 各普通教室前に手洗い場を配置し、日常的な手洗いの習慣化につなげることができる計画とします。
- 4-c 児童生徒用の更衣室を各階に確保することで、児童生徒が安心して利用できる計画とします。

⑤ 様々な学習形態に柔軟に対応できる施設

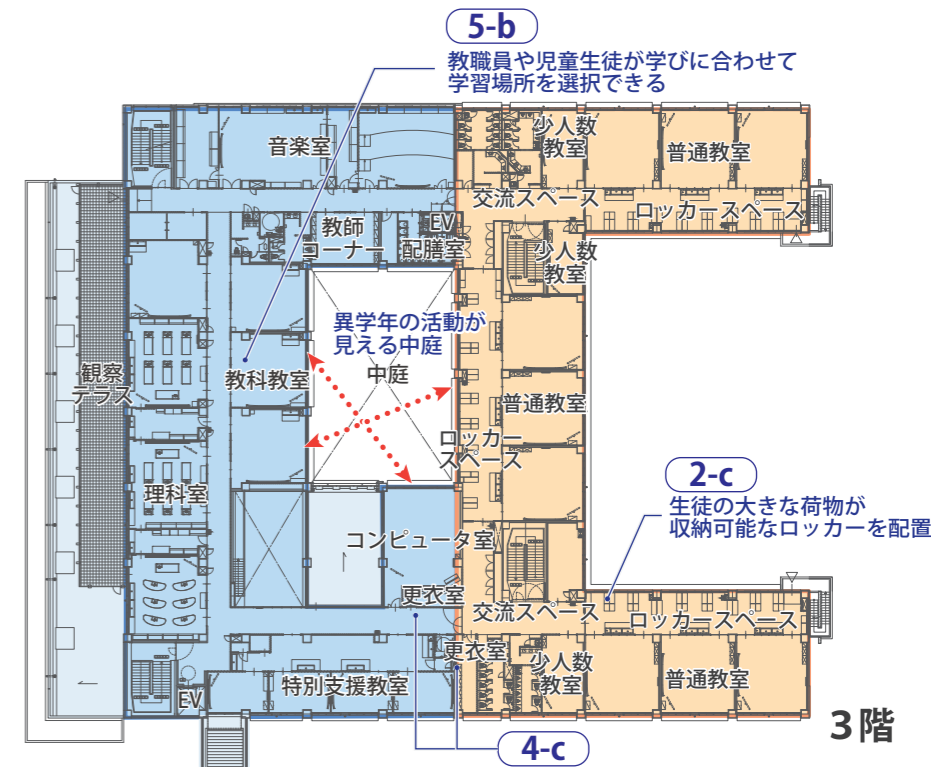
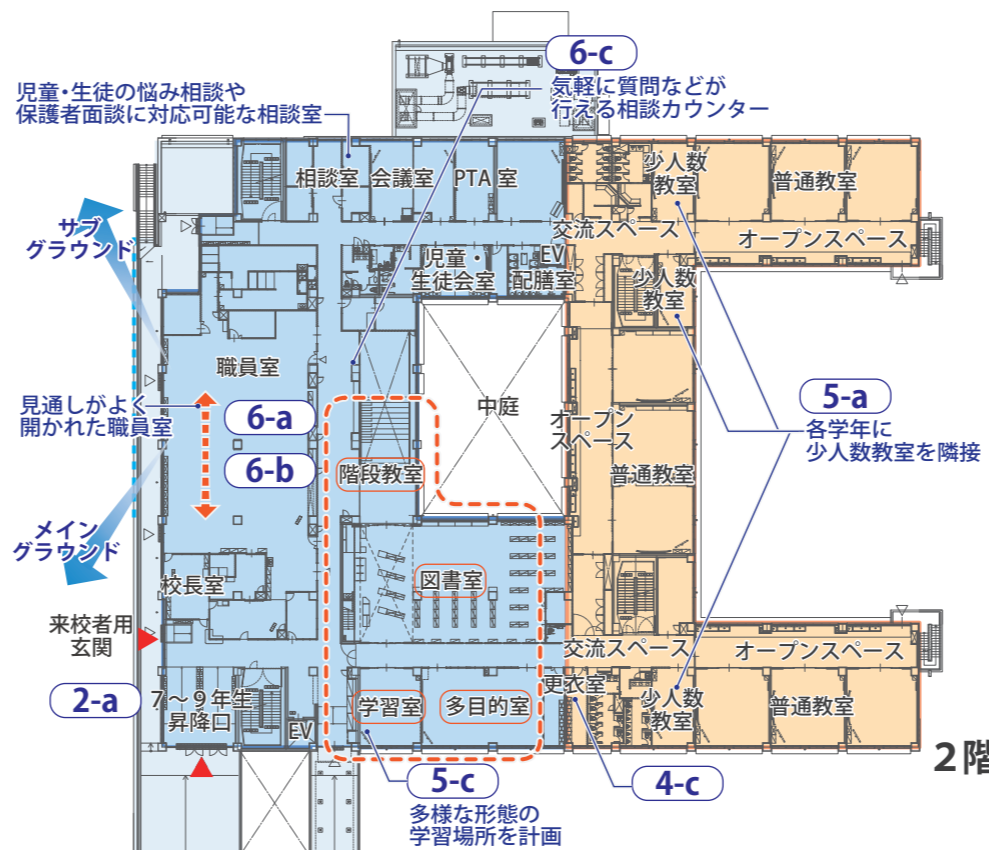
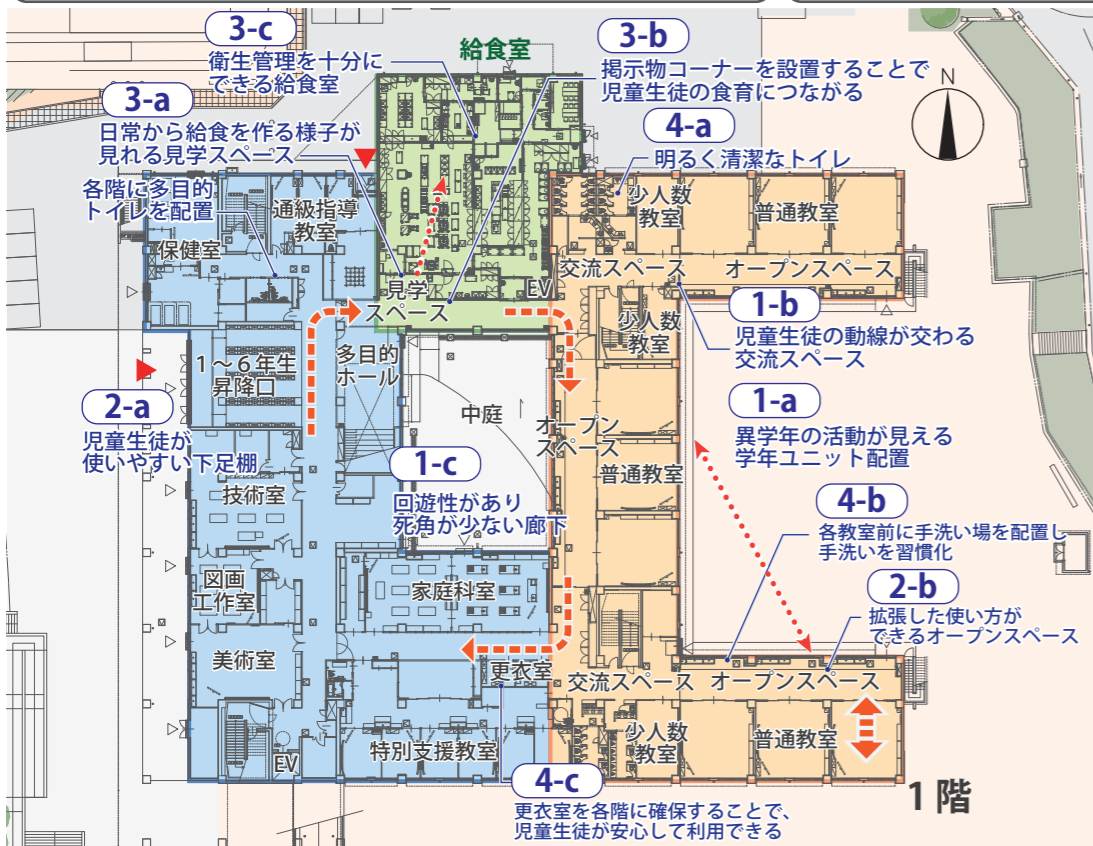
- 5-a 学年ごとに少人数教室を隣接して配置し、きめ細やかな学習への対応が可能な計画とします。
- 5-b 教職員や児童生徒が学びに合わせて学習場所を選択できるように、多様な形態の学習場所を計画します。
- 5-c 図書室を中心に対話や発表ができる機能を持った学習場所を隣接させることで、児童生徒が主体となって学び、生きる力を育むことのできる計画とします。

⑥ 機能的で連携できる管理諸室

- 6-a 職員室は1～9年生の全教職員が空間を共有することで、迅速な情報共有や連携を強化できる計画とします。
- 6-b 児童生徒が気軽に質問などが行えるように、職員室内に児童生徒対応コーナーを計画します。
- 6-c 職員室前の廊下に相談カウンターを設け、児童生徒や保護者の対応などが行えるスペースを計画します。



内観イメージパース



事業スケジュール ※工事の進捗状況によって、変更になることがあります。

2021年(令和3年度)												2022年(令和4年度)												2023年(令和5年度)												2024年(令和6年度)											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
設計着手						工事着工						事業全体工期 44ヶ月												義務教育学校開校						竣工引渡																	
設計						新校舎 新築						引越						既存体育館 改修						体育館(サブアリーナ) 新築																							
小学校プール 解体						中学校プール 解体						中学校武道場 解体						中学校 校舎解体						小学校 校舎解体						児童館 解体																	
テニスコート移設 仮職員駐車場整備						ひだまり館(学童保育所) 改修						来校者・職員 駐車場整備						小学校体育館 解体						サブグラウンド整備																							

凡例 解体 改修 新築 外構